

夢への飛躍

金沢桜丘高校いしかわニュースーパーハイスクールだより

令和6年度 第6号

編集：NSH推進課

発行責任者：梅本 浩照

県内在住外国人との交流研修

10月31日(木)、2年人文科学コースの生徒を対象に、北陸先端科学技術大学院大学から15名の留学生をお招きし、今年度2回目の交流研修を行いました。1グループに外国人2名という充実した環境で、生徒たちは生きたコミュニケーションを満喫しました。

課題研究の初期段階で実施された前回の交流研修。それから204Hの生徒は粘り強く研究を進め、その成果を英語で披露しました。前回より研究内容が深まったため、当然英語表現の難易度もUP。本当に通じるのか？実施前は緊張の色が見られる生徒たち。しかし**First Session**が始まると、自己紹介から大いに盛り上がり、張り詰めた空気もほぐれたようでした。自分からどんどん質問したり、相手を気遣った対応を見せるなど、受け身ではなく積極的に会話を続けようとする強い意志を感じました。また、後半の研究内容発表の時間になると、生徒も留学生も真剣そのもの。スライドを見せ、また時にはホワイトボードを使いながら、しっかりと研究内容を伝えることができ、留学生はそれに感心したり、質問したり、的確なアドバイスをくれたり。特に、留学生の出身国・文化ならではの視点でのアドバイスは、最強のフィールドワークでしたね。もちろん英語が通じにくい場面もありましたが、忍耐強く待ってくれる留学生を前にあきらめずに表現し続ける生徒。「伝えたい」との思いに溢れた空間となりました。これぞコミュニケーション！みなさんの、「英語力」+「ホスピタリティ」の両方において大きな成長を見ることができました。閉会式では、多くの留学生が、感動を胸いっぱい感想を述べてくださったことも、忘れられません。”Your pronunciation is your identity.”のメッセージが心に残った生徒も多くいました。204Hの課題研究はさらに深まっていきます。12/12(木)が校内発表会です。みなさんお楽しみに！

【自己紹介&フリートーク(15分) + 課題研究プレゼンテーション&質疑応答(25分)] × 2 sessions



●生徒の声

- 自分の意見を相手に理解してもらえるように伝えることの難しさを実感した。
- 完璧な文をつくらうとしてなかなか発言できなかったのが、文構造とかを考える前に、伝わる英語で簡単に話すことを意識したいと思った。
- 最後の感想で発音にコンプレックスを持つのではなく自分の一部として認めるように言ってくださったのがとても心に残った。
- うまく伝えられなかったり、理解できないことを言葉を変えて言って、伝わった瞬間がすごく心に残りました。自分の国についてたくさん話していただいたので、新たな気づきを得られました。
- 聞き取ることができなかった時もゆっくり話してくださったり、わかりやすい英語を使ってくくださったのがありがたかったです
- 国によって英語の発音がかなり違って、違う言語を話す人とコミュニケーションを取るときに大切なことは、完璧な話し方よりも話したいという気持ちだということがわかった。
- 前の外国人との交流会をしたときよりも、話している内容を理解できたのでよかったです。ところどころ難しくてもわからないところもあったけど、わかりやすいようにゆっくり話してくれたりしてくれたので、理解することができました。
- スライドの順番によって、プレゼンに対する相手の印象が大きく変わることがわかった。
- 前回きれいに言おうとして結局何も言えなかったことが度々あったが、今回はうまく言うことよりも積極的に伝えることを重視した。そうしたら、拙いながらも会話ははずんだし、たくさんの意見が得られた。
- 自分とは異なる文化の人と話すのはとても楽しかったし、互いに熱心に耳を傾けているのがわかって嬉しかったので、もっと海外の人と話したいと思ったし、その為に英語をもっと頑張ろうと思った。
- 異文化間での交流で、新たな発見につながったため、この体験を活かして、大学に入ったときでも、こういったディスカッションを大事にしたいと思った。
- もっと自分からコミュニケーションを取る姿勢を示していきたいし、留学生と交流できるような学部に入りたいので積極性をこれから大切にしていきたい。
- 英語をスラスラ話せるようになりたいと思った。英語は色んな国の人をつないでくれるんだなと思った。